

明治期後半における教育用理化学器械製造の拡充と研究用・産業用機器製造への展開

—島津製作所の製品目録と市場の変化に着目して— / 川勝 美早子 22巻1号、17-40(2019)

本論文では、島津が研究・産業用計測機器製造へ展開できた要因について、第一に市場の特性に対応した製品ラインナップの拡充、第二に教育用理化学器械と研究用機器における製品の連続性、第三に第三高等中学校や第三高等学校、京都帝国大学との関係性という観点から詳細に明らかにしてきた。特に第三については、顧客としての関係、教授による指導関係、共同開発関係により、新知識の導入、本格的な輸入販売の開始、最先端研究の協力による新事業への進出、計測機器の製造、研究・産業用計測機器の国産化への取り組みなどにつながり、それぞれの関係性が、島津の展開において重要な点であったことを明示した。

また、それに至る教育用理化学器械製造の基盤をいかにして固めたかについては、製品目録の比較分析により、教育制度や教育の現場の要求に合わせて科学教育の充実を図った意味のある拡充を行っていたことが明らかとなった。こうした取り組みによって島津は教育界の信用を獲得し市場を確保していくことになる。また、教育用と研究・産業用計測機器の製造には技術の連続性があり、島津がその方向に重点を置いていった誘因は第三高等学校、京都帝国大学の要求と創業期から形成されてきた科学研究への志向であった。